

令和 2 年度事業評価シート

No.1

PLAN(計画)

自己評価

事務事業番号	46
--------	----

担当課	教育委員会		担当課長	森 裕子		
事業担当者	今田 雅弘		一次評価者	江上 智恵		
事業区分	継続事業		事務事業評価の履歴	有		
事務事業名	学力向上に向けた教育の推進					
予算科目	10 款 1 項 3 目					
予算事業名	教育振興一般経費					
総合計画での位置づけ (施策名)	健全な子供を育てる					
事業の性格	自治事務					
法令根拠等	-					
事業の対象	久山町内全教職員、小中学校児童生徒、教員、保護者					
事業の目的	久山町の子どもたちの学力及び保護者の家庭学習による学習習慣への意識を向上させることを目的とする。その手段のひとつとして、ICT環境を整備することにより、子どもたちの学習への興味・関心を高め、アクティブラーニングを実現させ、確かな学力の育成へつなげる。また、学校のwi-fi環境を整備することにより災害時の避難所としての活用につながる。					
実施期間	開始年度	平成 25 年度から				
	終了年度	令和 年度まで				
事業の内容	町内全教職員(幼稚園、小中学校)の教職員が一堂に会した上で研修を開催し、縦と横の連携を図り、共通理解を深め一貫した教育を行う。 学校施設のwi-fi環境の整備、児童・生徒へのタブレット配布、1教室1台電子黒板設置することで、ICT教育の推進を図る。					
目的達成の指標 (成果指標)	全国学力テストの全国平均より3ポイント以上高かった年を○とする。					
	区分年度	単位	1 年度	2 年度	3 年度	4年度
	目 標	-	小○、中○	小○、中○	小○、中○	小○、中○
実 績		小○、中○	※新型コロナの為中止			
指標設定の考え方	子どもの学力定着度をもって成果とする。 (全国学力テストは小6、中3で、県学力テストは、小5、中1、中2で毎年実施、加えて標準学力調査小1～小6で実施。)					
計画時の懸案事項	小学校1年生から中学校3年生まで、平均して学力を保障することが課題である。					
計画時の懸案事項への対応	県学力調査、全国学力調査は小学校5年生から中学校3年生までが対象となっている。そこで小学校1年生から実施できる標準学力テストを導入する。そして、学年により学力の差が出ないように、学力向上研修会を開催し、組織的、計画的に学校において学力向上に取り組むように計画、実践、見直しを図っていく。					

PLAN(計画)

No.2

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 12,556 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。(千円)

項 目	1 年度予算	2 年度予算	3 年度予算	4 年度予算	
事務量	① 人工数	0.58	0.58	0.58	0.58
	② 人件費単価	7,891	7,652	7,179	7,179
	③ 補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費(①×②-③)	4,576	4,438	4,163	4,163
事業費	直接事業費	1,082	111,117	3,978	3,978
	人件費	4,576	4,438	4,163	4,163
	合 計	5,658	115,555	8,141	8,141
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	5,658	115,555	8,141	8,141
合 計	5,658	115,555	8,141	8,141	

事業費計画

(千円)

区分/年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
目 標	1,082	111,117	3,978	3,978	3,978
実 績	1,064	88,209			

事業活動の実績(活動指標)

※ 上段には目標値を、下段には実績値をそれぞれ記入してください。

項目	単位	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
教職員全員研修会	回	2	2	2	
		1	0		
学力向上に関わる教職員研修	回	3	3	3	
		3	2		
学力分析テスト	回	1	1	1	
		1	1		

DO(実施)

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 10,067 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。(千円)

項 目	1 年度決算	2 年度予算	2 年度決算	3 年度予算
事務量	① 人工数	0.58	0.58	0.58
	② 人件費単価	7,891	7,652	7,652
	③ 補助事業人件費	0	0	0
	人件費(①×②-③)	4,576	4,438	4,438
事業費	直接事業費	1,064	111,117	88,209
	人件費	4,576	4,438	4,438
	合 計	5,640	115,555	92,647
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,640	115,555	92,647
合 計	5,640	115,555	92,647	

実施備忘録

--

CHECK(評価)

No.3

自己評価	評価者	今田 雅弘
------	-----	-------

5段階評価で評点を付けます。
5 大 ←→ 小 1 ↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
<input checked="" type="checkbox"/> 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	B
<input type="checkbox"/> 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	3	
<input checked="" type="checkbox"/> 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	4	
<input type="checkbox"/> 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	3	
2. 町が実施する必要があるか？		
<input checked="" type="checkbox"/> 町が実施主体となることが法令等により定められている。 ※該当する場合は左の口にチェックしてください。		A
<input type="checkbox"/> 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	3	
<input type="checkbox"/> 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	3	
<input type="checkbox"/> 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	2	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		B
<input checked="" type="checkbox"/> 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	
<input checked="" type="checkbox"/> 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
<input type="checkbox"/> 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	3	
②効率性		B
<input checked="" type="checkbox"/> 事業費に見合った成果を上げている。	5	
<input type="checkbox"/> 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。	3	
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	3	
③公平性・透明性		C
<input type="checkbox"/> 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)	3	
<input type="checkbox"/> 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	3	
<input type="checkbox"/> ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	2	

今後の方向性	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの
<input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)	
<input checked="" type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)	
<input type="checkbox"/> C見直し	
<input type="checkbox"/> D廃止	
<input type="checkbox"/> E完了	

C見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> その他

4. 自己評価の理由(必要性、有効性、効率性、公平性・透明性の観点から)

学力については、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止となり中心となる指標で図ることができなかった。福岡県が実施している学力テストで小学校5年生、中学校1, 2年生の学力を図り一つの指標としたが、結果としては小学校5、中学校2年生の学力が県平均に比べ高く、中学校1年生の学力は国語科において県平均を上回ったものの、数学は下回る結果となった。学力は、中学校卒業後の進路に直結するため、保護者の関心も高く、今後の町民生活に与える影響も大きいと考える。

効率性を今後高めるためには、タブレット端末の活用が考えられる。コロナ禍であったが、遠隔での交流などが実現しており、移動なく効率的に仮想体験をしながら学ぶ姿も見られた。

児童生徒の将来を左右する学力については、来年度以降も教職員の研修や児童生徒や教職員との対話を繰り返しながら高めていけるようにしたい。

5. 成果実績の評価(今後の方向性等について具体的に)と課題認識

学力については、一定の成果が見られるが、学年間の差も顕著となってきている。今後は学力テストを分析して、児童生徒が学習のどこに躓いているのかを把握し、個に応じた学習を従来の方法やタブレット端末を活用しながら行っていきたい。

本町の特色の一つであるグローバル人材育成事業については、順調に進んでいるものの、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、修学旅行を含めた体験型学習等を中止せざるを得ない状況となった。来年度は、コロナ禍でもできる活動を模索し、児童生徒が体験的に学べる学習を計画するように助言する。

特別に支援を要する児童生徒についても、教職員の指導力の資質・能力向上を掲げ、個に応じた学習活動、ねらいを定めていきたい。

CHECK(評価)

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

No.4

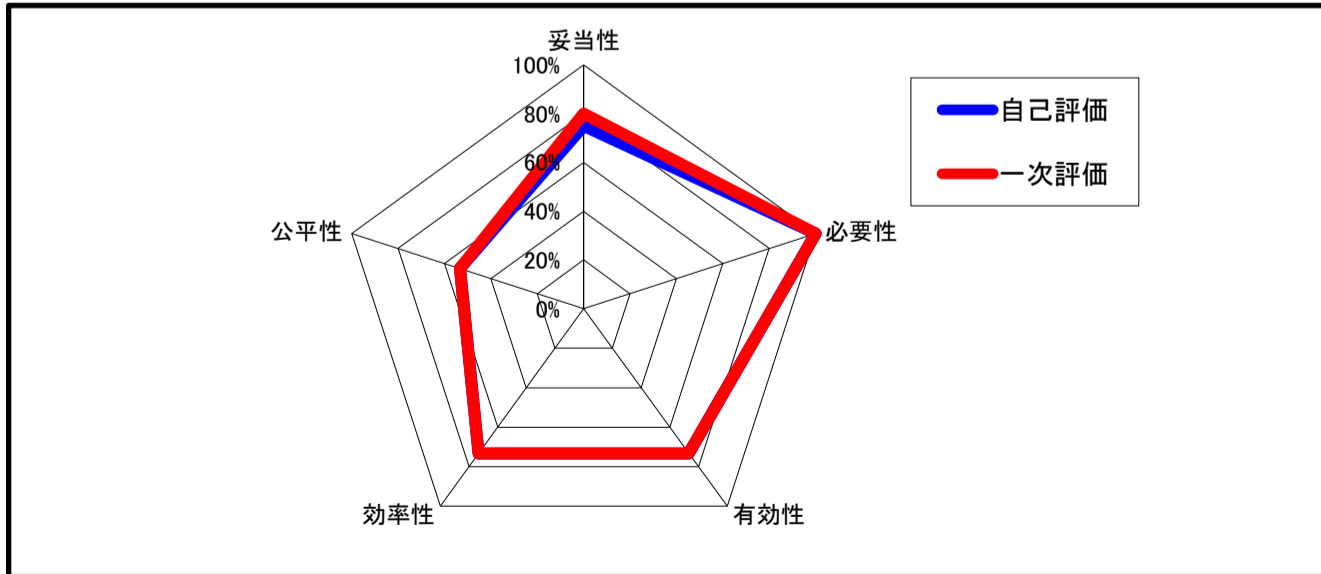
一次評価	評価者	江上 智恵	5段階評価で評点を付けます。 5 大 ←→ 小 1 ↓	
1. そもそも必要な事業か？			評点	判定
<input checked="" type="checkbox"/> 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。			5	B
<input type="checkbox"/> 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。			3	
<input checked="" type="checkbox"/> 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。			4	
<input checked="" type="checkbox"/> 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。			4	
2. 町が実施する必要があるか？				
<input checked="" type="checkbox"/> 町が実施主体となることが法令等により定められている。 ※該当する場合は左の口にチェックしてください。				A
<input type="checkbox"/> 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。			3	
<input type="checkbox"/> 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。			3	
<input type="checkbox"/> 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。			2	
3. 実施内容は適切か？				
①有効性				B
<input checked="" type="checkbox"/> 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。			4	
<input checked="" type="checkbox"/> 事業の手法・活動内容は適切である。			4	
<input type="checkbox"/> 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。			3	
②効率性				B
<input checked="" type="checkbox"/> 事業費に見合った成果を上げている。			5	
<input type="checkbox"/> 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。			3	
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。			3	
③公平性・透明性				C
<input type="checkbox"/> 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)			3	
<input type="checkbox"/> 事業費に占める一般財源の額は妥当である。			3	
<input type="checkbox"/> ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。			2	

今後の方向性	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの	C見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)		<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input checked="" type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)		<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> C見直し		<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> D廃止		<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> E完了		<input type="checkbox"/> その他

一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、休校や授業の変更があったりとこれまでにない状況のなかで、授業時数を確保し、タブレットを導入するなど新たな取り組みを行い、模索を行いながら学力向上につとめている。また、学校では教職員の研修もOJTなどを取り入れるなど工夫をこらしており、先生の指導力につながっている。先生の指導力の向上が児童・生徒の学力の向上にもつながると思うので、継続的に行うべきである。タブレットの導入で授業が大きくかわる転機となっており、これまでの学習の基礎の上に、タブレットを利用したよりグローバルで豊かな学習を通じ、子ども達の学力の向上に努めていきたい。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.5

二次評価

評価者

森 裕子

- A以下の点について良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。

- B計画どおり、現状のまま事業を継続する。

タブレットも活用しながら、基礎学力の向上に努める。また、教職員の研修にも力を入れる。

- C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するため計画の見直しを行う。

- D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。

外部評価委員会
で評価する。

月 日
開催予定

- E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。

- 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。

一次評価をやり
直し、
月 日
までに提出すること。

評価終了
 外部評価へ

ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。 No.6

外部評価

今後の方向性	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの	C見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)		<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input checked="" type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)		<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> C見直し		<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> D廃止		<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> E完了		<input type="checkbox"/> その他

評価	B	外部評価委員の意見 ・ICT教育のための環境整備(教師の研修、保護者へのアプローチなど)を検討する必要がある。 ・機器更新のための事業負担が大きいことが懸念。前述の環境整備などを含めた、あらゆる課題にも対応できるよう、計画的な予算確保が必要。
----	----------	--

経営者会議

経営者評価	町長
-------	----

今後の方向性	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの	C見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)		<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input checked="" type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)		<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> C見直し		<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> D廃止		<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> E完了		<input type="checkbox"/> その他

評価	B	経営者会議の結果 ・学力向上においては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも、子どもたちの学習意欲や保護者の学習習慣への意識を高めることが必要であり、その手段の一つとして、ICT教育を実施している。 ・令和2年度に久山町学校ICT整備・活用計画を策定し、1人1台の端末、1教室1台の大型提示装置などを整備し、非常時におけるオンライン授業にも対応できる、子どもたちの学習環境を整えた。 ・機器の活用技術について教師間の差があることや、ICT教育に関する保護者への情報発信が十分でないなどの課題がある。今後も教師の研修を積極的に実施することや専門員による技術的支援により現場の課題解決に努めながら、段階的な取り組みを計画通り実施するとともに、保護者の理解を深めていただくために、ICTを活用した授業の実施状況や、子どもたちの様子についての情報発信に努める。 ・機器更新のための予算確保については、学力向上の成果を確認しながら、毎年一定程度の基金積立を行い、更新に備えていく。
----	----------	--

令和 4 年度予算要求事項(今後の取り組み)
・専門員(ICT支援員)を引き続き配置し、町内の小中学校教職員がタブレット機能操作面、メンテナンス面、学習事例面においてストレスなくタブレット端末を活用できるようにする。またICT活用のスキルを向上させる。その結果、教職員間の活用頻度や技術の差が埋まり、学力の基礎の一つである児童生徒の情報活用能力を高めていく。 ・保護者の理解を深めていただくために、町広報紙や学校からのたより等を活用して、ICTを活用した授業等の取り組みについて情報発信に努める。 ・タブレット端末等の機器更新のための予算確保については、学力向上の成果を確認しながら、毎年一定程度の基金積立を行い、更新に備えていく。

